

## 大阪新美術館準備室 研修報告書

### 「村上三郎資料のアーカイブ化」

橋本紘明

## 研修内容

本研修では村上三郎資料のアーカイブ化に向けた一次調査を担当した。資料は段ボール箱 74 箱あり、前所持者（遺族）による大まかな分類があったが、物の数量、蔵書リストなど含まれるものに関する詳細情報は無かったため、箱番号を振りながら、中身がわかるようリスト化をしていった。

箱の中身は主に蔵書であったが、手紙や DM のほか、海外渡航での土産やマッチなどさまざまな形態のモノも含まれていた。蔵書については著者、タイトル、出版社を記述した。後の研究者が使いやすくなるよう、蔵書の中に何か書き込みや、線を引いている物については備考欄に「書き込みあり」と記入した。雑誌は雑誌名、発行年を記載した。その他の手紙類については年代別に分けることは困難であり、また数も膨大な為、その数を記載するにとどめた。モノ資料は、ビニール袋や紙袋など古くなった包装物を取り除き、透明な保存袋に入れてまとめ、内容物が見えるようにした。なお、箱番号 51 は作業時の確認ミスにより重複したため 2 箱あり、箱番号は総数が 74 に対して 73 までとなっているが、意図的なものではなく、また現状の番号は蔵書が棚に並ぶまでの仮番号であることから、リスト上の箱番号と実際の箱の中身とにズレのないことを確認したうえで、①と②の番号を振って対処した。

編成計画は、とくに資料の移送前に村上三郎自身によって構築されたと考えられる秩序は見出せなかったため、今後の保管や資料の検索のしやすさを考慮して、過度な細分化をしないように心がけた。

## 研修日程と作業内容

作業日	時間	内容
8月1日	10:00～17:00	BOX1～7 のリスト化
8月2日	9:30～17:00	BOX8～17 のリスト化
8月6日	9:30～17:00	BOX18～30 のリスト化
8月7日	9:30～17:00	BOX31～36 のリスト化

8月8日	9:30～17:00	BOX37～39 のリスト化
8月9日	9:30～16:00	BOX37～43 のリスト化
8月13日	9:30～16:00	BOX44～49 のリスト化
8月14日	9:30～16:00	BOX50～62 のリスト化
8月15日	9:30～16:00	BOX63～73 のリスト化
8月20日	9:30～12:00	編成計画書の作成

## 村上三郎資料について

村上三郎（1925－1996）は1943年6月神原浩に師事し、油絵を始める。神原浩は風景画を多く手がけており、村上の初期の作品も《西宮北口風景》や《夙川風景》の様に風景を中心に描いていた。1949年10月に伊藤継朗に師事する。その頃、伊藤継朗のアトリエで後に共にO会を結成する白髪一雄と出会う。その後いくつかの展覧会を経て、1954年11月「O会展」（そごう百貨店ショーウィンドー、大阪）を開き「投球絵画」を展示する。その後1955年に具体美術協会に加入し、同じ年7月の「真夏の太陽にいどむ野外モダンアート実験展」でアスファルトルーフィングに塗料をぶちまけ、アスファルトルーフィングを走りながら破る作品が展示された。その10月には第一回具体美術展が東京の小原会館で開催され、村上は初めて、紙を破る作品《6ツ穴》を観客の前で制作する。後にこの「紙破り」はあらゆる場所で再現され、パリのポンピドゥーセンターで再演された際はハプニングの先駆的作品として評価された。

現在まで、村上三郎の作品を中心に扱った研究論文はあまり多いとは言えない。だが、今回のアーカイブ化によって、研究者はこれまであまり知られていなかった村上三郎の資料にアクセスできるようになる。この情報公開を期に、国内外を問わず、様々な研究者によって具体研究のみならず、より村上三郎個人に焦点を当てた研究が行われる事に期待する。また、当準備室は村上三郎の作品も所蔵しているので、それと今回作業した資料を合わせると、かなりの数の情報資源が収蔵されていることになる。

## 研修を振りかえって

本研修では村上三郎の全資料74箱のリスト化（エクセルへの打ち込み作業）と編成計画が課題として設定されていた。研修日については作業が終わるように自主的に計画を立て、設定することが求められた。まず数が膨大であるため、何をどの程度細分化して打ち込んで行くかという事を考えさせられた。こうした実務の時間配分については、学芸員になった時にも求められる能力であるので良い経験となった。今回の調査では、村上の蔵書を中心とした資料をデータ化したのが、書き込みのある蔵書も多

く、それを丁寧に調査すると新たな作品解釈の可能性を追求できる可能性を感じた。最後に、研修途中、寄贈者から資料とともに受領していたエクセルと PDF の電子データのリストを参照用に頂いた際に、確認をせず自分の判断で、前もって手渡されていた紙のリストを処分してしまった事を反省したい。紙のリストが寄贈者から持ち込まれたもので、資料の移動に際して、確認に用いられたものであることを知らなかったこともあり、メモの有無など、データとの同一性について疑問を持たなかった。今後はこのような事がおきないように、随時確認するように心がけたい。もちろん、作業の始まりと終業の際に5分ほどの報告会が毎日あったため、その時に自分が確認をしていれば起こらなかった事である。このようなアーカイブ化作業は初めてであったので、不手際も多かった。だがそれでも、学生の自主性を重んじて、作業を担当させて頂いたことに感謝したい。何より、初期調査の一部を担当できた事は大きな喜びであった。今後はこの経験を生かし、より一層研究に励みたいと思う。